

II. 月報201号～300号の総目録と索引

「専修大学社会科学研究所月報」目録

(No.201,1980.5.～No.300, 1988.7.)

1980

- | | | |
|--------|-----------------------------------|-------|
| No.201 | チュルゴの企業・企業者論〈研究ノート〉 | 水川 侑 |
| No.202 | 資本循環＝社会認識としての『経済学・哲学〈第1〉草稿』〈研究論文〉 | 内田 弘 |
| No.203 | 資本循環＝社会認識としての『経済学・哲学〈第1〉草稿』〈研究論文〉 | 内田 弘 |
| No.204 | 続「相対的過剰人口論」をめぐって〈研究論文〉 | 平川 東亜 |
| No.205 | 私の歩んだ道 | 古島 敏雄 |
| No.206 | ポーランドの河川航行史〈研究ノート〉 | 池田 博行 |
| No.207 | 学校教育法の成立過程Ⅰ〈研究ノート〉
研究会報告 | 佐々木 享 |
| No.208 | 学校教育法の成立過程Ⅱ〈研究ノート〉
研究会報告 | 佐々木 享 |

1981

- | | | |
|--------|---|---|
| No.209 | 日本における食料品、特に青果物流通システムと改善のための主要な政府の施策
〈研究ノート〉
定例研究会報告 | 森 宏 |
| No.210 | 民間委託と地方自治〈研究ノート〉
研究会報告 | 宮田 三郎 |
| No.211 | 社会科学の原点を求めて〈研究ノート〉 | 青木 信治 |
| No.212 | 故山田盛太郎先生追悼号
山田先生を偲び感謝の辞
山田先生と社会科学研究所
山田先生と私
追悼
山田先生の一面
思い出すこと
一つの発見
感想二題
山田先生と算盤一或る日のプロフィール—
ひとつの回想
山田先生を偲びて
感銘深い山田先生の講義
山田盛太郎先生の思い出
「再生産過程表式分析序論」50年を目前にして
山田先生の思い出
一受講生の思い出
故山田盛太郎先生主要著作
故山田盛太郎先生略歴 | 相馬 勝夫
大友 福夫
平館 利雄
小林 義雄
古島 敏雄
内田 義彦
石渡 貞雄
福島 新吾
長 幸男
二瓶 敏
加藤幸三郎
栗木 安延
加藤 佑治
鍋島 力也
坂牧 三郎
泉 武夫 |

No.213	歴史に見る鉄道政策——憶測——〈資料紹介〉	池田 博行
No.214	シンポジウム「アメリカの農業・日本の農業」——春季合宿研究会報告—— 日米農業の比較組織論的考察（要旨） 素人のアメリカ農業見聞記 日本における農民層分解の現局面〈報告要旨〉	玉城 哲 三輪 芳郎 二瓶 敏
No.215	法人留保と乗数効果〈研究論文〉 「中流」意識と「中間層社会」(?)〈研究ノート〉	作間 逸雄 柴田 弘捷
No.216	適正な外材輸入のあり方について〈研究論文〉	森 宏
No.217	ポーランドの食料問題によせて〈資料紹介〉	池田 博行
No.218	専大社研・訪中団・報告書 社研・訪中団について 第1部 中国で感じたこと、思ったこと 1. 顔に魅せられて 2. 中国を一瞥して 3. 社会主義の深部の力と建設の難しさ 4. 「近代化」・「自由」・「道徳」——訪中団随員員の迷想—— 5. 社会主義中国を訪ねて資本主義文化を考える 6. 中国旅行断片 第2部 訪中団、行動記録	三輪 芳郎 三輪 芳郎 梅井 義雄 二瓶 敏 田島 俊雄 平川 東亜 木幡 文徳 二瓶 敏
No.219	ヴァッターの「差別化」概念〈研究論文〉	水川 侑
No.220	ポーランド国の狭軌鉄道小史〈研究ノート〉	池田 博行
1982		
No.221	中国社会科学院法学研究所を訪ねて——中国新民主主義革命時期法制文献の紹介を中心にして——	宮坂 宏
No.222	『貨幣論』から『一般理論』へ(1)——質的転換をもたらした草稿「貨幣的経済のパラメータ」——〈研究論文〉	平井 俊顕
No.223	アメリカ自動車工業の後退諸要因〈研究ノート〉	栗木 安延
No.224	生産様式の接合について・再考	望月 清司
No.225	過剰同調社会論の試み（上）——探究のためのノート——〈研究論文〉	小沼 堅司
No.226	不確実性、市場構造と価格パフォーマンス——北海道じゃがいもに関するケース・スタディー——〈研究論文〉	森 宏
No.227	イギリスにおける日本進出企業と労働問題——「日本の労使関係」再検討のための覚え書き——〈研究ノート〉 所外研究員江口英一氏学士院賞を受賞〈研究ノート〉	加藤 佑治
No.228	鉄鋼業におけるプライス・リーダーシップ	水川 侑
No.229	流通と情報についての覚書〈研究ノート〉	森 宏
No.230	過剰同調社会論の試み（中）——探究のためのノート——〈研究論文〉	小沼 堅司
No.231	大佛次郎賞受賞記念講演「作品への遍歴」 まえがき 1. 内田義彦氏の謝辞 2. 内田義彦氏に聴く	内田 義彦 三輪 芳郎 質問者 澤野 徹 酒井 進 常行 敏夫

		内田 弘
		小沼 堅司
No.232	過剰同調社会論の試み(下)―探究のためのノート―〈研究論文〉	小沼 堅司
No.233	特別剰余価値と相対的剰余価値―『資本論』形成史における両概念―〈研究論文〉	内田 弘
1983		
No.234	造船業の企業類型〈研究論文〉	溝田 誠吾
No.235	〈内田義彦教授最終講義〉	
	経済学部長挨拶	望月 清司
	同僚代表謝辞	吉澤 芳樹
	考えてきたこと、考えること(最終講義)	内田 義彦
No.236	〈古島敏雄教授最終講義〉	
	経済学部長挨拶	望月 清司
	古島敏雄先生の業績について	加藤幸三郎
	道と車―近世交通史の一齣―(最終講義)	古島 敏雄
No.237	公的年金改革論の動向〈研究ノート〉	西岡 幸泰
No.238	不況下の経営・労働者・地域(1)―長崎県佐世保市・佐世保造船所を事例として― 〈研究論文〉	
		柴田 弘捷
No.239	Japan's Beef Industry With Emphasis on Beef Imports	森 宏
No.240	現代日本農政試論(1)〈研究論文〉	石渡 貞雄
No.241	現代日本農政試論(2)〈研究論文〉	石渡 貞雄
No.242	〈認識論的切断〉について―“Pour Marx”を読む(研究論文)	伊吹 克己
No.243	理想の相克―社団法人実費診療所の運営をめぐる―〈研究ノート〉	白柳 夏男
No.244	不況下の経営・労働者・地域(2)―長崎県佐世保市・佐世保造船所を事例として― 〈研究論文〉	
		柴田 弘捷
No.245	〈故玉城哲所員追悼号―追悼研究集会から〉	
	玉城哲所員を悼む―開会の辞―	三輪 芳郎
	玉城君を偲ぶ	高橋七五三
	玉城哲の思い出―昭和20年～30年代を中心に―	関矢 礼二
	編集者としてのつきあい	森下 紀夫
	〈第三世界〉に絡めて	室井 義雄
	閉会の辞	石渡 貞雄
1984		
No.246	ビール産業における製品差別化〈研究論文〉	水川 侑
No.247	トルコの交通政策史(1)―バグダード鉄道建設史―〈研究ノート〉	池田 博行
No.248	トルコの交通政策史(2)―バグダード鉄道建設史―〈研究ノート〉	池田 博行
No.249	機械論から剰余価値学説史へ―『1861-63年草稿』機械論草稿「連続執筆」説批判― 〈研究論文〉	内田 弘
No.250	米国で実感した日米貿易摩擦―牛肉・オレンジ問題を中心として―〈雑感と研究 論文〉	森 宏
	オレンジ輸入自由化のわが国柑橘に及ぼす経済効果〈雑感と研究論文〉	森 宏
		グレッグ・ベイカー
No.251	ソ連の経済計画と経済メカニズム―マルトウイノフ教授を迎えての「社研・特別 研究会」報告―	
No.252	経済人の現在〈研究論文〉	宮本 光晴

No.253	〈西田 勲教授最終講義〉 経済学部長挨拶 同僚代表謝辞 アメリカと日本の財政	望月 清司 鈴木 直次 西田 勲
No.254	A Mathematical Formulation of Keynes's Treatise on Money	平井 俊顕
No.255	自動車工業における生産自動化と生産管理システム 〈研究論文〉	溝田 誠吾
No.256	まえがき	鈴木 直次
257	西田先生に聞く—昭和社會運動史の一断面— (西田勲先生聞き書き)	
合併号		
1985		
No.258	アダム・スミスの分業論と価値論—方法の観点から— 〈研究論文〉	酒井 進
No.259	社研夏季合宿研究報告 マルクスと現代社會諸科学—マルクス没後100年に寄せて— ・あいさつ ・マルクスと農民問題 経済史の領域から マルクスと労働経済学 思想史の領域から—大いなる〈封じ込め〉の理論?— 論点の整理と感想	三輪 芳郎 石渡 貞雄 加藤幸三郎 加藤 佑治 小沼 堅司 内田 弘
No.260	〈高橋七五三教授最終講義〉 経済学部長挨拶 同僚代表謝辞 ポパーの方法論と経済学 〈最終講義〉	望月 清司 内田 弘 高橋七五三
No.261	アルゼンティンの鉄道史 〈研究ノート〉	池田 博行
No.262	I 中国における社会科学情報事業の現状と課題—中国社会科学院・金徳泉先生 を迎えての「社研・交流会」報告— 1. あいさつ 2. 金徳泉先生の報告 3. 金徳泉先生の略歴と業績の紹介 4. 歓迎, 旧友・金徳泉さん II 中国法制事情—中国の法をどのようにとらえるかということについての一つ の見解—	所長 三輪 芳郎 斎藤 秋男 宮坂 宏
No.263	「価格メカニズム=市場メカニズム=競争原理」とは何だろう—鶴田俊正氏 (日 本の産業政策), 叶芳和氏 (日本農業論) 等の最近の所論をめぐって— 〈コメント〉	森 宏 池本 正純
No.264	I 朝鮮民主主義人民共和国における社会主義建設の現状—朝鮮社会学者代表 団を迎えての「社研・交流会」報告— 1. 歓迎のあいさつ 2. 代表団員の紹介 3. 答礼のあいさつ 4. 朝鮮民主主義人民共和国における社会主義建設の現状 5. 質疑応答 II 女子炭鉱労働者 〈紹介〉	所長 三輪 芳郎 代表団団長 金澈明教授 代表団団長 金澈明教授 池田 博行
No.265	私の70年—その知的遍歴—	高橋七五三

- No.266 『経済学批判要綱』における実体規定 内田 弘
- No.267 『一般理論』の生誕(上) 一生誕前夜 平井 俊顕
- No.268 コンピュータ科学と社会科学 石沢 篤郎
- 高齢化社会におけるME技術革新の展開をめぐる諸問題 高橋 祐吉
- No.269 アメリカ産業構造の研究 鈴木 直次
- 1986
- No.270 『一般理論』の生誕(下) 一校正過程一 平井 俊顕
- No.271 GNPデフレーターについて 作間 逸雄
- 田作の歯軋りの弁〈研究ノート〉 池田 博行
- No.272 THE MONEY OF THE SPIRIT 内田 弘
- 内田弘著『中期マルクスの経済学批判』〈書評〉 原 伸子
- No.273 「国家秘密法案」合同研究会報告
- 開会のあいさつ 人文科学研究所・所長 芥川 集一
- 国家機密法案の背景と基本問題 法学研所員 隅野 隆徳
- 図書館と国家機密法体制 人文研所員 森崎 震二
- 閉会の辞 社研所員 新藤 宗幸
- 自民党のスパイ防止法案(全文)〈資料〉 (1985.6.6 国会提出)
- 図書館の自由に関する宣言〈資料〉 日本図書館協会(1954年採択, 79年改定)
- No.274 わが国市場における国産牛肉と輸入牛肉の競合関係—大賀・稲葉シミュレーションの間接的批判— 森 宏
- 早稲田大学教育学部講師 稲葉 敏夫
- No.275 内部組織の論理 宮本 光晴
- No.276 戦後経済の発展と財政—所得倍増計画下の財政— 吉岡 健次
- 一面的労働価値説はいかに克服されるべきか—サービス商品価値の認知について— 石渡 貞雄
- No.277 Some Notes on the Japanese Livestock Economy— 森 宏
- No.278 産業連関分析とポーランドの経済社会 吉岡 恆明
- The Different Environmental Impact of Deregulation on Financial Markets in the U.S. and Japan: Is the Market Always Right? 望月 宏ほか
- No.279 戦後経済の発展と財政(No.276につづく)—所得倍増計画下の財政— 吉岡 健次
- No.280 なぜ株式会社か 石渡 貞雄
- 北海道行刑史・囚人労働小史〈資料紹介〉 池田 博行
- No.281 「国家秘密法修正案」第2回合同研究会報告
- ・開会あいさつ 社会科学研究所・運営委員 福島 新吾
1. 国家秘密法修正案の刑法学的検討 法研所員 大野 平吉
2. 国家秘密法案とマスコミ 人文研所員 高須 正郎
- ・閉会の辞 社研所員 新藤 宗幸
- 国家秘密法案新旧対照表〈資料〉
- 旧法案と修正案の構成要件比較一覧表〈資料〉
- 「国家秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」に対する日本新聞協会の見解(1985年11月13日発表)〈資料〉
- 1987
- No.282 1940年代・解放区と〈生活教育〉—「中国革命と〈生活教育〉運動」・続稿 斎藤 秋男
- No.283 回想I 〈大友福夫先生に聞く〉

No.284	G.オーウェルにおける「人間らしさ (decency)」の観念	小沼 堅司
No.285	I.ウォーラステイン『近代世界システム—農業資本主義と「ヨーロッパ世界経済」の成立』(川北稔訳・岩波現代選書)の概念構成とその歴史叙述への適用について	常行 敏夫
No.286	現代の科学・技術の問題点	明治学院国際平和研究所 豊田 利幸
No.287	「近代世界システム論」をめぐって	川北 稔
No.288	「抜本的」税制改革案と地方財政	原田 博夫
		日本経済研究センター研究員 廣岡 壽樹
No.289	合宿研究会報告 討論会記録;その2—川北稔氏「近代世界システム」論をめぐって— 空に消えた人々〈文献紹介〉	池田 博行
No.290	消費者行動への双対性接近法— A Pedagogical Note—	中島 巖
No.291	憎悪と恐怖(1)—「スターリン主義」考—〈研究論文〉	小沼 堅司
No.292	憎悪と恐怖(2)—「スターリン主義」考—〈研究論文〉	小沼 堅司
No.293	Japanese Agriculture—Rice Policies—Background and Issues as Related to Feedstuffs	森 宏
1988		
No.294	第三世界の主要理論と諸観点	高麗大学校教授 金 浩鎮
	経済人類学は難解か?—ポランニー「経済と文明」の翻訳をめぐって—	望月清司訳・解題 渡部 重行
No.295	ダイヤモンドはその輝きに価するか〈資料紹介〉	池田 博行
No.296	わが国自動車企業の対米進出過程	鈴木 直次
No.297	Import Regulations and Consumers' Benefit—The Case of Beef in Japan	森 宏
		Wm. D. Gorman
No.298	日本の失業者はどのくらいか—あるいは日本の統計は日本の失業をいかに少く見積もっているか—	エス・ウリアニーチェフ 加藤佑治訳・解説
No.299	地域開発と先端産業の立地	黒田 彰三
No.300	月報300号発刊記念号	

専修大学『社会科学年報』目録

(第15号, 1981.3.~第22号, 1987.3.)

第15号 (1981年3月)

論文

寡占的二重経済と経済政策体系	吉家 清次
両大戦間における住友財閥の収支構造	麻島 昭一
革命の型と経済戦略の型——ソ連と中国の比較——	宮下誠一郎
株式ブーム下のアメリカ自動車産業——乗用車生産を中心に——	鈴木 直次
価値意識の革命——J・S・ミル政治思想の転換(一)——	小沼 堅司
財政学方法論序言——財政学とその方法論——	青木 信治

研究ノート

横浜正金銀行史研究の動向II——横浜市史と横浜正金銀行史——	加藤 俊彦
中国革命と〈生活教育〉運動——'79年度・在外研究報告の一部——	斎藤 秋男

書評

いかなる意味で核戦争の危機はあるか——福島新吾著『日本の「防衛」政策』—— 山田 浩
 辻勝次著『仕事の社会学』 柴田 弘捷

第16号 (1982年 3月)

論文

「所有と支配の分離」は存在するか——資本所有の分割とその支配—— 石渡 貞雄
 国家社会主義の理論——その比較研究—— 青木 信治
 限界原理のリアリティー——フル・コスト原則と限界原理との統合の試み—— 池本 正純
 1920年代末のアメリカ自動車輸出 鈴木 直次
 戦後日本の流通機構——卸売業の動向と経営革新—— 田口 冬樹

研究ノート

医療生活協同組合の系譜と現状 西岡 幸泰
 地方都市の人口動態と3次産業化の関係の事例研究 黒田 彰三

資料

ピューリタン革命期庶民院の経済政策史年表 常行 敏夫

書評

内田義彦『作品としての社会科学』を読む 小林 昇

第17号 (1983年 3月)

特集 低成長下の産業と地域・生活

低成長下、エネルギーの二、三の動向 黒岩 俊郎
 構造不況下における生産力の展開 大西 勝明
 日本工業の地域構成と関東工業地帯——統計分析にもとづく一覚書—— 二瓶 敏
 借地農による規模拡大の可能性——埼玉、千葉の水田地帯実態調査より—— 三輪 芳郎
 “遅れてきた開発”と地域社会——富津埋立開発と漁民社会の変様—— 柴田 弘捷
 物・人・組織——第二次生活行動に関する予備調査—— 奥田 和彦

論文

鉄鋼業における社外工制度の成立 加藤 佑治
 地域社会における「同和」教育と差別意識——長野県上田市塩田地区を事例として—— 鐘ヶ江晴彦
 ケインズにおける理論と現実——1933年の到達状況—— 平井 俊顕

研究ノート

児童収容施設の形成展開過程（その1）——上毛孤児院の経営・財政の整備過程について 1897（明治30）年～1902（明治35）年—— 宇都 栄子

書評

溝田誠吾著『アメリカ鉄鋼独占成立史』 永田 啓恭
 企業別組合論批判の原点——大友福夫著『日本労働組合論』に学ぶ—— 向井 喜典

第18号 (1984年 3月)

論文

「プラン草案」の資本章構想 内田 弘
 1920年代を中心とするアメリカ自動車企業の資本蓄積（下） 鈴木 直次

研究ノート

『イギリス綿業報告』をとおして見た1930年前後のイギリス綿業の実情と日本の競争 泉 武夫
 社会史としてのイギリス1930年代——「ミーンズ・テスト」と「ハンガー・マーチ」—— 佐藤 恭三
 名古屋市都心部の土地利用分析——都心部再活性化への道—— 福島 義和
 マルクス没後百年に寄せて——おくれげの革新へ—— 望月 清司

「ケインズ革命」の再検討——ケインズ自身を対象として——	平井 俊顕
書評	
加藤佑治著『現代日本における不安定就業労働者』(上)・(下)	相沢 与一
内田弘著『「経済学批判要綱」の研究』	杉原 二郎
ヤン・プリビラ著『社会主義的経済近代化の諸問題』	宮下誠一郎
(Jan Prybyla, Issues in Socialist Economic Modernization, 1980)	
第19号 (1985年3月)	
論文	
戦後食糧危機に関する考察——占領改革の基礎過程——	栗木 安延
第一次大戦後の三菱財閥の金融——財閥企業と財閥金融機関の関係——	麻島 昭一
J.S.ミルの1848年フランス二月革命論	小沼 堅司
現代帝国主義の構造とスタグフレーション	矢吹 満男
住民意識と社会「同和」教育——上田市西部・塩尻地区調査から——	鐘ヶ江晴彦
研究資料	
アメリカ合衆国の障害児教育に関する連邦法	嶺井 正也
研究紹介	
西ドイツにおける最近の労使史・労働者運動史研究の動向——J.コッカ『賃労働と階級形成』を中心に——	八林 秀一
書評論文	
新たな近代イギリス史像とそのリアリティ——川北稔『工業化の歴史的前提』をめぐって	常行 敏夫
書評	
麻島昭一著『戦間期住友財閥経営史』	大塩 武
池本正純著『企業者とは何か』	越後 和典
第20号 (1986年3月)	
特集 市場機構と政府・公共部門の役割	
社研プロジェクト「市場機構と政府・公共部門の役割」のねらいと経過	三輪 芳郎
	池本 正純
	新藤 宗幸
政策実施手段としての行政指導——考察のための若干の覚書——	池本 正純
市場メカニズムと取引コスト	儀我壮一郎
電気通信事業の規制緩和と日本電信電話株式会社	松田 修
公的金融の問題点——深まる財政・金融両面からの矛盾——	森 宏
需要・供給の原理再論	吉岡 健次
戦後経済の発展と財政——経済復興期の財政——	青木 信治
公共政策の理論と実際	中島 巖
Keynes and the Neo-Classics	
論文	
現代資本主義の構造的方向性——「資本家階級が存在しない資本主義」への質問に答える——	石渡 貞雄
労働貴族論——社会運動史序説——	栗木 安延
「産業主義」確立期における一つの思想風景(上)——J.S.Mill, T.Carlyle and St. Simonians, 1825-1835——	小沼 堅司
研究ノート	
インナーエリアの再開発と地理学	福島 義和

書評		
	玉垣良典著『景気循環の機構分析』	長島 誠一
第21号 (1987年 3月)		
論文		
	1920年以降の住友財閥の金融——財閥企業と財閥金融機関の関係——	麻島 昭一
	二つの文化革命——1928～31年ソ連と1966～76年中国——	宮下誠一郎
	大都市都心の再生——ジェントリフィケーションを中心として——	黒田 彰三
	G.オーウェルの全体主義認識における政治思想——ドストエフスキーの「大審問官」伝説を引照して——	小沼 堅司
	租税配分原則論に関する一考察	青木 信治
	謝名城(1)——村落社会における文化の重要性についての覚え書き——	樋口 淳
	労働供給の代替的モデル	中島 巖
	日本における一般集中度の推定——H指数およびエントロピー指数による——	吉岡 恆明
研究ノート		
	産業経済学に関するノート	水川 侑
書評		
	西岡幸泰著『現代日本医療政策論』	儀我壮一郎
	新藤宗幸著『アメリカ財政のパラダイム・政府間関係』	原田 博夫
第22号 (1988年 3月)		
特集	ハイテクノロジーと社会科学	
	社研プロジェクト「ハイテクノロジーと社会科学」のねらいと経過	三輪 芳郎
	現代日本の研究開発体制	大西 勝明
	デュアル・イノベーション下の労務管理の変容——「日本的雇用慣行」は崩壊したか——	柴田 弘捷
	FA工場における原価管理——わが国主要企業の訪問調査中間報告——	桜井 通晴
論文		
	三菱合資会社の経営者層——直営事業分離以前——	麻島 昭一
	製品差別化とA.マーシャル	水川 侑
	「生産的公益支出」とマクロ経済体系	中島 巖
	金子尚雄の記録と思想	宇都 栄子
研究動向		
	『資本論』形成史研究の旅——1986年度専修大学在外研究報告	内田 弘
資料紹介		
	戦前東海地方における蚕糸関係資料——三龍社の場合——	加藤幸三郎
書評		
	現存の社会主義批判——F.フェーヘル, A.ヘラー, G.マールクシュ著, 富田武訳『欲求に対する独裁』を読む——	宮下誠一郎

「専修大学社会科学研究所月報」および『社会科学年報』の執筆者索引（五十音順）

月報・年報の号数のみを記す。年報号数は〔 〕で示す。また同一号に複数執筆の場合は、（ ）内にその数を示す。

あ相 沢 与 一	[18]
青 木 信 治	211, [15, 16, 20, 21]
芥 川 集 一	273
麻 島 昭 一	[15, 19, 21, 22]
い池 田 博 行	206, 213, 217, 220, 247, 248, 261, 264, 271, 280, 289, 295
池 本 正 純	263, [16, 20(2)]
石 沢 篤 郎	268
石 渡 貞 雄	212, 240, 241, 245, 259, 276, 280, [16, 20]
泉 武 夫	212, [18]
稲 葉 敏 夫	274
伊 吹 克 己	242
う内 田 弘	202, 203, 231, 233, 249, 259, 260, 266, 272, [18, 22]
内 田 義 彦	212, 231, 235
宇 都 栄 子	[17, 22]
え越 後 和 典	[19]
お大 塩 武	[19]
大 友 福 夫	212, 283
大 西 勝 明	[17, 22]
大 野 平 吉	281
奥 田 和 彦	[17]
か加 藤 幸三郎	212, 236, 259, [22]
加 藤 俊 彦	[15]
加 藤 佑 治	212, 227, 259, [17]
鐘ヶ江 晴 彦	[17, 19]
川 北 稔	287
き儀 我 壮一郎	[20, 21]
吉 家 清 次	[15]
金 澈 明	264
金 徳 泉	262
金 浩 鎮	294
く栗 木 安 延	212, 223, [19, 20]
黒 岩 俊 郎	[17]
黒 田 彰 三	[16, 21]
こ古 島 敏 雄	205, 212, 236
小 沼 堅 司	225, 230, 231, 232, 259, 284, 291, 292, [15, 19, 20, 21]
木 幡 文 徳	218
小 林 昇	[16]
小 林 義 雄	212
さ斎 藤 秋 男	262, 281, [15]

さ酒	井 進	231, 258
坂	牧 三 郎	212
作	間 逸 雄	215, 271
桜	井 通 晴	[22]
佐々	木 享	207, 208
佐	藤 恭 三	[18]
澤	野 徹	231
し柴	田 弘 捷	215, 238, 244, [15, 17, 22]
白	柳 夏 男	243
新	藤 宗 幸	273, 281, [20]
す杉	原 四 郎	[18]
鈴	木 直 次	253, 256, 257, 269, 296, [15, 16, 18]
隅	野 隆 徳	273
せ関	矢 礼 二	245
そ相	馬 勝 夫	212
た高	須 正 郎	281
高	橋 七五三	245, 260, 265
高	橋 祐 吉	268
田	口 冬 樹	[16]
田	島 俊 雄	218
玉	城 哲	214
ち長	幸 男	212
つ常	行 敏 夫	231, 285, [19, 19]
と梅	井 義 雄	218
豊	田 利 幸	286
な中島	巖	290, [20, 21, 22]
長	島 誠 一	[20]
永	田 啓 恭	[17]
鍋	島 力 也	212
に西	岡 幸 泰	237, [16]
西	田 勲	253, 256, 257
二	瓶 敏	212, 214, 218(2), [17]
は原	伸 子	272
原	田 博 夫	288, [21]
ひ樋	口 淳	[21]
平	井 俊 顕	222, 254, 267, 270, [17, 18]
平	川 東 亜	204, 218
平	館 利 雄	212
廣	岡 壽 樹	288
ふ福	島 新 吾	212, 281
福	島 義 和	[18, 20]
へ	ベイカー・グレッグ	250
ま松	田 修	[20]
マル	トゥイノフ	251

み水	川	侑	201, 219, 246, [21, 22]
	溝	田 誠 吾	234, 255
	嶺	井 正 也	[19]
	宮	坂 宏	221, 262
	宮	下 誠一郎	[15, 18, 21, 22]
	宮	田 三 郎	210
	宮	本 光 晴	252, 275
	三	輪 芳 郎	214, 218(2), 231, 245, 251, 259, 262, 264, [17, 20, 22]
む向	井	喜 典	[17]
	室	井 義 雄	245
も望	月	清 司	235, 236, 253, 260, [18]
	望	月 宏	278(2)
	森	宏	209, 216, 226, 229, 239, 250(2), 263, 274, 277, 293, [20]
	森	崎 震 二	273
	森	下 紀 夫	245
や八	林	秀 一	[19]
	矢	吹 満 男	[19]
	山	田 浩	[15]
よ吉	岡	健 次	276, 279, [20]
	吉	岡 恆 明	278, [21]
	吉	澤 芳 樹	235
わ渡	部	重 行	294

〔編集後記〕

本号は、月報300号発刊記念号である。月報が、4半世紀を経て、300号を記録したことは、専修大学社会科学研究所の脈々たる活動の結実であり、これを記念して創刊100号記念号、創刊200号記念号に倣って、月報201号から300号までの目録、年報第15号から第22号までの目録、そして各々の執筆者索引を作成、掲載した。

月報201号から300号までの特徴の1つとして、英文の投稿や外国人執筆者という国際化現象をあげることができるが、「民営化」、「国際化」、「情報化」等々の21世紀への変化に向けて、コップの中の嵐にあっても、専修大学社会科学研究所の真理探究の社会的責任は、ますます要請されるものと期待されます。

ここに、月報300号の発刊を慶び、専修大学社会科学研究所の一層の発展を関係各位皆様とともに願いたい。

(Σ.A)

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話(044)911-8480(内線2818)

専修大学社会科学研究所

(発行者) 三輪芳郎

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話(03)404-2561
